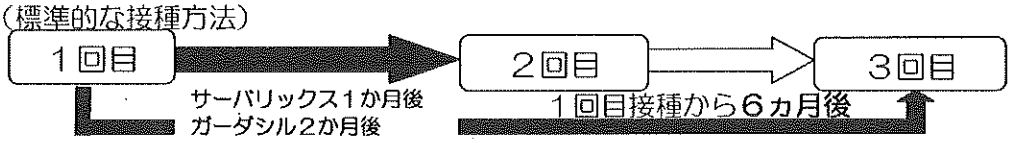
ヒトパピローマウイルス（HPV）感染症予防接種の説明

<table>
<tr><td>接種対象年齢</td><td>小学６年から高校１年に相当する年齢の女子</td></tr>
<tr><td>望ましい接種年齢</td><td>中学１年に相当する年齢の女子</td></tr>
<tr><td>ワクチンの種類</td><td>不活化ワクチン　ヒトパピローマウイルス感染症予防ワクチンは「サーバリックス」と「ガーダシル」の２種類あります。
<table><tr><td></td><td>サーバリックス</td><td>ガーダシル</td></tr><tr><td>予防できるHPVの型</td><td>HPV１６・１８</td><td>HPV６・１１・１６・１８</td></tr><tr><td>予防できる病気</td><td>子宮頸がん</td><td>子宮頸がん・尖圭コンジローマ</td></tr></table>※ヒトパピローマウイルス（HPV）には多くの種類があります。予防接種だけで全ての子宮頸がん及びその前がん病変などを防ぐことはできませんし、すでに感染しているウイルスを排除したり、発症しているがんの進行を遅らせたり、治療することはできません。
※「サーバリックス」と「ガーダシル」は、１人に対して、どちらか１種類のワクチンしか接種できません。<u>１～３回目までを同じワクチンで接種しなかった場合は、補助の対象となりません。</u>また、１つのワクチンで３回の接種が終了した後、もう一方のワクチンを改めて接種した場合も、補助の対象とはなりません。</td></tr>
<tr><td>予防する病気</td><td><子宮頸がん>子宮の入り口（頸部）にできるがんで、日本では年間約 15,000 人の女性が新たに子宮頸がんと診断されます。ほとんどはHPVの感染が原因で発症することが解明されています。このウイルスは主に性交渉で感染し、女性の約８割が一度は感染するといわれています。感染しても大部分は自然に排除されますが、まれに持続的に感染することがあり、５年から１０年以上を経て一部ががんの発症につながります。子宮頸がんは２０～３０歳代で急増しています。ウイルスに感染している可能性が低い１０代前半にワクチンを接種することで、子宮頸がんの発症をより効果的に予防できます。
<尖圭コンジローマ>HPV感染が原因で、外陰部にイボのようなものができる病気です。主に性交渉によって感染し、自覚症状はあまりありません。ほとんどの場合、悪性化することはありませんが、まれに、悪性化する可能性もあるため、経過観察が必要な場合もあります。性感染症の中でも、近年は増加傾向にあります。</td></tr>
<tr><td>接種回数</td><td>６か月の間に計３回　　★十分な効果を得るためには３回の接種が必要です。
<u>（標準的な接種方法）</u>
 
全３回の接種に６か月以上の期間が必要です。接種を希望の方は上記対象年齢内に３回接種が終わるように早めに接種しましょう。対象年齢外に接種された分は全額自己負担となります。</td></tr>
<tr><td>接種期間</td><td>年間通して実施</td></tr>
<tr><td>実施場所</td><td>個別予防接種実施医療機関</td></tr>
<tr><td>注意事項</td><td>・接種後の血管迷走神経反射として失神があらわれることがあるので、失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が腕を持つなどして付き添うようにし、接種後３０分程度体重を預けられるような場所で座らせるなど、なるべく立ち上がらないようにしましょう。
・保護者が同伴しないで、お子様１人でヒトパピローマウイルス感染症予防接種を受ける場合はあらかじめ同意書（予診票裏面）と予診票の２箇所に保護者の方の署名が必要です。
・ワクチンで防ぎきれなかったがんを早く見つけて治療するためには、子宮頸がん検診が必要です。
<u>２０歳以上になったら定期的にがん検診を受けましょう。</u>
・佐賀市が交付する「子宮頸がん予防接種済証」は母子手帳に貼り、接種の際は必ず持参してください。（紛失した場合は、佐賀市健康づくり課にご相談ください。）</td></tr>
<tr><td>副反応</td><td>両ワクチン共にワクチン接種後に血管迷走神経反射による失神が現れることがあるので、上記の注意事項を守りましょう。
<サーバリックス>国内臨床試験において、局所症状は疼痛 99.0%、発赤 88.2%、腫脹 78.8%・全身症状は疲労 57.7%筋肉痛 45.3%、頭痛 37.9%、胃腸症状 24.7%、関節痛 20.3%、発疹 5.7%、発熱 5.6%、蕁麻疹 2.6%でした。
<ガーダシル>国内臨床試験において、局所症状は疼痛 82.7%、紅斑 32.0%、腫脹 28.3%、そう痒感 6.4%、出血 1.8%、不快感 1.6%でした。また、全身性の副反応は発熱 5.7%、頭痛 3.7%、臨床検査値異常変動 0.7%でした。</td></tr>
<tr><td>備考</td><td>各医療機関に予約の有無や時間を確認してください。
必ず体温を測って、予診票と母子健康手帳を持っていきましょう。</td></tr>
</table>

裏面へ↓

予防接種を受けに行く前に

予防接種に行く前のチェック

□　お子さんの体調はよいですか。

□　今日受ける予防接種について、必要性、効果及び副反応など理解していますか。
わからないことがあれば、質問をメモにしておきましょう。

□　母子健康手帳は持ちましたか。母子手帳に予防接種済証を貼っていますか。

□　予診票の記入はすみましたか。

1．接種を受ける前に

予防接種は体調のよい時に受けるのが原則です。日頃から保護者の方はお子さんの体質、体調など健康状態によく気を配って下さい。そして気にかかることがあれば、あらかじめかかりつけ医や佐賀市健康づくり課または、各支所にご相談下さい。

安全に予防接種を受けられるよう、保護者の方は、以下のことに注意の上、当日に予防接種を受けるかどうか判断して下さい。

（1）当日は、朝からお子さんの状態をよく観察し、ふだんと変わったところのないことを確認するようにしましょう。
予防接種を受ける予定であっても、体調が悪いと思ったら、かかりつけ医に相談の上、接種をするかどうか判断するようにしましょう。

（2）受ける予定の予防接種について、必要性や副反応についてよく理解しましょう。わからないことは、接種を受ける前に接種医に質問しましょう。

（3）母子健康手帳は必ず持っていきましょう。その際は『子宮頸がん予防接種済証』を母子手帳に貼って持って行きましょう。
※紛失された方は佐賀市健康づくり課４０－７２８２にご相談ください。

（4）予診票は、接種する医師への大切な情報です。責任をもって記入するようにしましょう。

（5）予防接種を受けるお子さんの日頃の健康状態をよく知っている保護者の方が連れて行きましょう。保護者が同伴しないで、お子様１人でヒトパピローマウイルス感染症予防接種を受ける場合はあらかじめ同意書（予診票裏面）と予診票の２箇所に保護者の方の署名が必要です。

2．接種を受けた後

（1）ヒトパピローマウイルス感染症予防接種では接種後に血管迷走神経反射として失神が現れることがあるので、表面の注意事項を守りましょう。

（2）接種後、生ワクチンでは４週間、不活化ワクチンでは１週間は副反応の出現に注意しましょう。

（3）接種部位を清潔に保ちましょう。当日ははげしい運動は避けましょう。

（4）入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。

（5）接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。

【お問合せ先】
ほほえみ館　健康づくり課　母子保健係　　４０－７２８２